

VI 広島県の「地(知)の拠点」 円卓フォーラムのまとめ

～1年半を振り返り、今後を見つめ直す

本日は、長時間にわたり円卓フォーラムにご参加いただき、熱心に討議いただきありがとうございました。心より感謝申し上げます。

生物生産学部が、地(知)の拠点整備事業の「中山間地域・島しょ部対策領域」(以下、「地(知)の拠点」とします。)に取り組んで1年半近くが経過いたしました。円卓フォーラムを締めくくりにあたり、この領域の責任者としてこれまでの活動を振り返り、今後を見直してみたいと思います。

これまでを振り返って

- 地域志向型教育の楽しさ、難しさ
- 1年生による地域体験の成果
特別講義、フィールド実習、インターンシップ
との相乗効果が期待される
- 事業全体の進め方に関する戸惑い、学習、改善
- 地域・自治体関係者からの大きな支援と激励

生物生産学部が中心になって実施している中山間地域・島しょ部に関する地域志向型教育は、学生にとっても、教員にとっても楽しいものです。フォーラム第1部の1年生学生による地域体験の成果報告がそれを示してくれます。一方、その体験の成果をどのように条件不利地域特別講義、フィールド実習、インターンシップなどの科目に活かしていけばよいのか、難しさも実感しております。

地域体験を出発点とした活動の計画、受入れていただく地域・自治体との調整、体験型教育の準備の仕方など、戸惑いもありました。地域・自治体関係者の方々からの支援と激励をいただきながら、担当教員、コーディネーター、職員がそれぞれの役割分担を果たしながら、学習し改善をしていくという繰り返しでした。

活動は第1段階から、第2段階へ

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| ● 中山間地域・島しょ部の“場”
をお借りして、 | ● 中山間地域・島しょ部の“場”
が抱える課題を、 |
| ● 地域の人々との交流・体験を
通して、 | ● 地域の人々と協同で勉強し、 |
| ● “業”と“生活”“文化”を学ぶ | ● “業”と“生活”“文化”を考える |

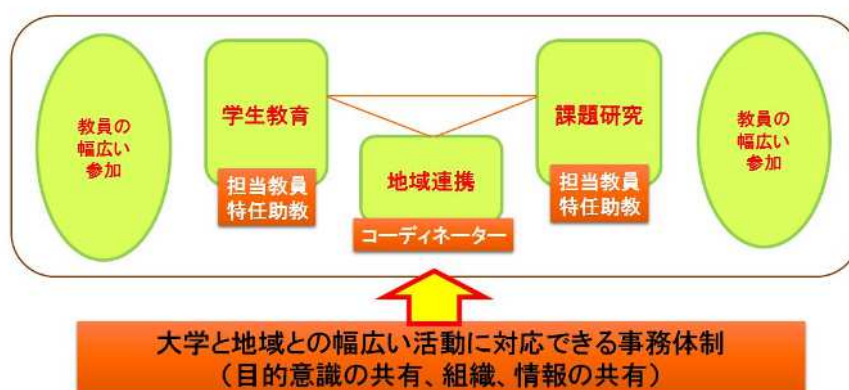
「地（知）の拠点」の活動は、第1段階から、第2段階に入りつつあります。

中山間地域・島しょ部に“場”をお借りして、地域の人々との交流・体験をする。それを通じて、参加学生は、“業（農業・水産業）”、地域の“生活”“文化”を学びました。

第2段階では、“場”が抱える問題や課題を、地域の人々と協同で勉強し、“業”、地域の“生活”“文化”を考えることとなります。高学年の学生たちには、地域体験を踏まえたより幅広く、より深い学習をしてもらいたいと考えております。

大学が準備すること

- 1) 分野横断的な活動を支える柔軟な組織
- 2) 教育、連携、課題研究を有機的に結ぶコーディネータ



地域志向型教育、地域課題を意識した調査研究を進めるには、大学として準備しなければならぬことも多いと考えております。

教育では、担当教員とこの活動に配置される助教がリーダーシップを発揮して、地域志向型教育がカリキュラム体系に組み込んでいかなければなりません。生物生産学部では、教養ゼミのなかに地域体験を位置づけ、特別授業、インターンシップと取り組み、フィールド演習を始めています。幸いなことに、教養ゼミを担当する教員の積極的な参加があり、これが1年生の地域体験を成功に導いています。

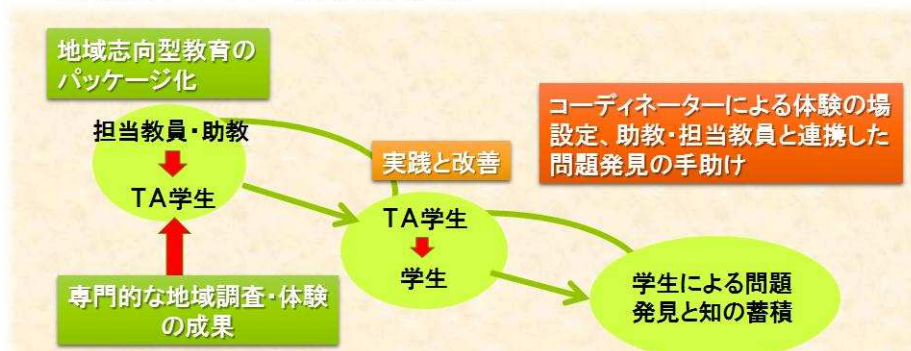
一方、地域課題研究はこれから本格的に取り組むところです。「地（知）の拠点」を開始する以前から、広島大学及び生物生産学部は、さまざまな地域課題を調査研究してきました。学生・院生によるフィールド研究も盛んです。今後は、それらと地の拠点この事業の地域課題研究との融合をはかり、地域に具体的にお役にたてる貢献をいたします。

教育と調査において、大学と地域を結び付ける役割を、このプロジェクトではコーディネーターが果たします。教員・職員にはない地域連携ノウハウをもった人材を配置し、分野横断的な活動を組織していきます。

学生、教員、コーディネーターを支える事務組織はきわめて大切です。地域や自治体の皆さまとの交流をスムーズに進めための事務手続きや費用発生に伴う処理が行われます。地域・自治体にご負担無く活動に参加いただくための工夫が必要です。

学生に共有・移転される経験と知

- 1) 地域交流を体験をした学生が後輩学生に伝達
- 2) 教務補助(TA)経験者の地域課題認識の高まり、蓄積された知と経験を移転



体験型の地域志向教育を実践するにあたり、多くの学生が教務補佐員として参加してくれました。すでにフィールド実験・実習を数多く経験している学生も多く、1年生の地域体験活動をうまく導いてくれています。担当教員、コーディネーターは、彼らが果たす指導的な役割を評価し、今後は学生間で地域交流の経験や地域課題に関する知識が引き継がれていくようにしたいと考えています。

終わりに

「地（知）の拠点」活動はまだ始まったばかりです。地域の皆さま、自治体関係者からいただいたご意見やご提言を踏まえ、今後どのような方向を目指すべきかについて、検討していく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。



「地（知）の拠点」活動と地域振興

1 「地（知）の拠点整備事業」は、大学が自治体・地域社会と連携し、大学全体で地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を目指して、地域の課題解決・地域振興に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在になることが大きな目的とされています。

2 広島県は瀬戸内海島しょ部や中山間地域の過疎化・高齢化が進んでいる地域（条件不利地域）での活力低下という社会課題に対して、先行してこの課題解決に向けて多様な取り組みを行っている先進地域でもあります。

3 広島大学では、中山間地域や島しょ部などで先進的取り組みを行っている自治体や地域の組織と強く連携し、農山漁村の現場で起こる様々な問題の解決と地域の活性化を目指して活動を行う、地（知）の拠点の形成を目指しています。

4 広島大学での学びを通して中山間地域・島しょ部等の地域課題への認識を深め、この解決に向けて自ら考え主体的に行動できる学生を養成するとともに、この地域社会・行政機関等と広島大学生物生産学部が地域課題を共有して地域活性化・地方創生の拠点形成につながる活動に協働して取り組んでいます。

